このような葉書が届いたが
私はあなたをまったく知らない。
もしあなたが誰かと間違えたのなら、
葉書をお返ししなければならない。

灯台からの響き

2020年 集英社

Story

東京・板橋区の商店街にある中華そば屋「まきの」。店主の牧野康平は、2年前の妻の急逝から店を開けられず、読書ばかりをして過ごしていた。
ふとしたきっかけから見つかった、30年前に届いた妻あての葉書。その葉書に描かれていた海岸線や灯台を探そうと、康平は旅に出る。
親友の急死や家族との絆。旅の途中で決意する店の再開。そして、少しずつ紐解かれる、葉書の送り主と妻の過去のできごと。
新しい出会いやさまざまな気づきをとおして、康平は自分を取り戻していく。

仲宿商店街（なかじゅく）

東京都板橋区にある仲宿商店街は、旧中仙道の最初の宿場町「板橋宿」に沿って南北に伸びています。店舗数は約150。
商店街の中には、江戸時代、参勤交代の大名たちが宿泊した板宿塾の本陣跡の碑も設置されています。
主人公康平の店はこの商店街のほぼ中央に位置しており、学校帰りの生徒の声、自転車の音、店の主人と客の会話など、日々、活気にあふれた様子を見せています。商品を買い求めるだけでなく、人とのかかわりも魅力のひとつである商店街は、今日にあっても近隣の人々の生活に欠かせない存在となっています。

協力　仲宿商店街振興組合

再起の支えとなった人・読書

康平は、奥さんを亡くしたあと、2年近く前向きなことができなかったのに、「昔の葉書」を見つけたことで、その謎を解明すべく動き出します。その"冒険"から彼の前向きな気持ちを感じることができ、大きな挫折を経ても人は再起できるのだ、と心強く思いました。また、康平を支えるのは家族、友人たちだけでなく、彼の読書力。たくさんの本から様々な知識や考え方を学び、自力の糧としています。読んだことの無い本がたくさん紹介されていて、これらもいつか読んでみたいと思いました。

Review